

<p>2 事業の概要と成果</p>	
<p>(1) プロジェクト目標の達成度 (今期事業達成目標)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●申請書に記載したプロジェクト目標 バングラデシュ国クルナ管区のシュンドルボン(The Sundarbans)周辺の零細農村生産者(265 世帯)を対象とし、農畜林水産部門の 6 次産業化による付加価値のある商品・加工技術の開発、マーケティングの開拓やエコ・グリーンツーリズム等の基盤整備および促進を図り、農村生産者の生計向上を図る。 ●申請書に記載した今期事業達成目標 農畜林水産業の六次産業化による 1 次産業者の生産技術のより一層の向上、加工や商品の品質改善を通じてバングラデシュ国内で開発された農畜林水産物の販売、並びにエコ・グリーンツーリズムの本格実施を通じ、11 の小学校(教師 34 人、生徒 1,583 人、保護者 3,166 人)と植林等を通じた地域の自然環境を保全しながら農村生産者協同組合(Sundarbans Workers Cooperative Society Limited: 直接受益者 265 世帯)(以下、協同組合)の生計向上を図る。 今期(第 2 年次)の事業目標の達成状況は、下記の通りである。 ・ 農畜林水産業の 6 次産業化による第 1 次産業者の生産技術のより一層の向上、加工や商品の品質改善や、エコ・グリーンツーリズムの組織・基盤整備を通じ、Sundarbans Workers Cooperative Society Limited(直接受益者 265 世帯)の能力の強化がより一層図られた。また、59,000 人程の人へ開発した商品の販売やエコ・グリーンツーリズムの周知・プログラムを提供した結果、漁師グループ、農業・畜産グループの各グループにおける生計が事業開始前よりも 15%増加、非木材林産物生産グループは 28%、エコ・グリーンツーリズムは、事業開始前よりも約 7.4 倍増加し、ほぼ当初の計画通りの数値を達成した。 ・ 11 の小学校や地域住民がマングローブの植林 20,000 本および果樹・薬樹 3,000 本の植林・環境教育プログラムを実施することで、植林の役割・意義・必要性について理解を深め、地域の自然環境保全に対する当事者意識を高めることができた。
<p>(2) 活動内容</p>	<p>1. Sundarbans Workers Cooperative Society Limited の組織運営・基盤の強化</p> <p>① 協同組合の組織運営強化(資金管理、監査等)を図るための研修会を開催した。4 つのグループ(各グループ 10 人のメンバー、合計 40 人のメンバー)に分かれ、3 日間のトレーニングを実施した。講師は、行政の協同組合局の職員が務めた。</p> <p>→ 研修実施日-漁師グループ: 2021 年 2 月 16 日～18 日、農業・畜産グループ: 2021 年 2 月 24 日～26 日、非木材林産物生産グループ: 2021 年 3 月 4 日～6 日、エコ・グリーンツーリズムグループ: 2021 年 3 月 18 日～20 日。</p> <p>② 協同組合事務所兼倉庫、コテージ、池、農園、家畜小屋を区画するため、長さ約 900 フィート、高さ 7 フィートの境界壁を設置した。</p> <p>③ 協同組合事務所兼倉庫の安定的な電気を確保するためのソーラーシステム(10kwh)を設置した。</p> <p>④ 協同組合事務所兼倉庫の下水処理システム(長さ 900m)を設置した。</p> <p>⑤ 協同組合事務所兼倉庫の床のタイル張りを通じて、事務所内の公衆衛生の改善を図った。</p> <p>⑥ 協同組合事務所やコテージで宿泊する人が使用可能な台所の設置を行った。</p> <p>⑦ 協同組合事務所兼倉庫で使用するプロジェクター(1 つ)、スクリーン(1 つ)、パソコン(1 つ)、音響機材(1 つ)、フリップチャートボード(2 つ)、ホワイトボード(2 つ)を購入した。</p> <p>⑧ 協同組合職員のユニフォーム(300 枚)をつくり、組合員(265 世帯)や事業</p>

関係者(35人)に配布した。

- ⑨ クルナ市に開発した商品を販売するためのグリーンショップの設置(1箇所)と販売戦略計画の策定を行った。
- ⑩ 協同組合事務所兼倉庫内において、開発した商品を保存するための冷凍貯蔵施設(1つ)を設置した。
- ⑪ 協同組合事務所兼倉庫内において、開発した商品をティスティングする実験室(1箇所)を設置した。
- ⑫ 開発した商品の輸送・販売(クルナ市等の都市部)することや、現地での農畜林水産物の原料等を運ぶための車両(1台)を購入した。
- ⑬ ネットショッピングのためのウェブサイトを開設した。
- ⑭ 組合の運営費として、組合員より80タカ(100円程度)/月/世帯を徴収した。なお、COVID-19の感染拡大の影響で、経済的な困難に伴い一部の会員費が徴収できない世帯もあった。

2. 適切な生産技術の習得や商品開発・サービスを行うための技能向上と商品の販売

(1) 漁師グループ

- ① 第1年次事業で開発した商品である、塩漬けイリッシュ、乾燥エビ、乾燥魚、パッキングした生魚、ロブスターやエビ等の品質向上のための研修会を開催した(選抜された10人、7日間)。講師は、行政の漁業専門家が担当した。

→ 研修日: 2021年5月25日～5月31日

- ② バングラデシュ品質管理検査機関(BSTI)からの国内(全国)における商品販売の許可申請とその承認を得た。
- ③ 包装箱のパッケージのデザイン・印刷を行った。
- ④ 乾燥魚と生魚のパッケージング機械の購入(2種類の機械)を購入した。
- ⑤ 漁師グループを対象とした魚を取り扱う食品会社・工場(Salam's Seafood Ltd.)へのスタディツアーを開催し、10名の受益者が参加。

→ スタディツアー開催日: 2021年9月14日～18日

- ⑥ 広報のためのパンフレット作成(1000部)し、グリーンショップや青空市等で配布を行った。
- ⑦ クルナ市のNirala ParkとHadis Parkの青空市では、33,600人が訪れた。また、他の販売所では、18,200人程が訪れ、開発した商品のアピールを行った。
- ⑧ グリーショップ等の開設により、開発した商品のローカルマーケットにおける商品販売店やその販売網を確立した。
- ⑨ 販売店舗でのモニタリング、販売店オーナーや購入者からの商品に関する意見集約した。

主な意見: シュンドルポンの新鮮な魚の魅力をパッケージングやメッセージで伝えており、衛生面に配慮した質の高い商品である。

(2) 農業・畜産グループ

- ① 第1年次事業で開発した商品のパッキングしたお米や野菜、カボチャを使った固形菓子、スイカジュース、油で揚げたお米のお菓子、高品質の卵・肉、凝乳、ケーキ等のスイーツの品質改善や、第2年次で新たに開発する商品の米粉、トマトソース、マメのダル、ゴマ油の商品化を図るための研修会を開催した(選抜された12人、7日間)。講師は、行政の農業普及員が務めた。

→ 日程: 2021年3月10日～3月16日

- ② 当該地域の伝統的なお米料理(Dhenki)をつくるための脱穀機材を購入(1台)した。
- ③ バングラデシュ品質管理検査機関(BSTI)からの国内(全国)における商品販売の許可申請とその承認を得た。
- ④ 油で揚げたお米のお菓子製造・パッケージング機械、スイカジュース製

造・パッケージング機械、卵のパッケージング機械、凝乳の製造・パッケージング機械、トマトソース製造機械、ボトルやキャップ詰め機械、ミニパック製造機械を購入した。

- ⑤ 包装箱のパッケージグのデザイン・印刷を行った。
- ⑥ 農業・畜産グループを対象とした魚を取り扱う食品会社・工場へのスタディツアーを開催し、10名の受益者が参加した。
→ スタディツアー開催日: 2021年10月1日～5日
- ⑦ 広報のためのパンフレット作成(1000部)し、グリーンショップや青空市等で配布を行った。
- ⑧ クルナ市の Nirala Park と Hadis Park の青空市では、33,600人が訪れた。また、他の販売所では、18,200人程が訪れ、開発した商品のアピールを行った。
- ⑨ グリーショップ等の開設により、開発した商品のローカルマーケットにおける商品販売店やその販売網を確立した。
- ⑩ 販売店舗でのモニタリング、販売店オーナーや購入者からの商品に関する意見集約した。
主な意見: シュンドルボンという自然やその地域の伝統を活かした商品を開発している。クルナ市民のニーズの高い商品が多い。定期的に購入する人も多く、人気が高い。

(3) 非木材林産物生産グループ

- ① 第1年次事業で開発した商品のマングローブ(Kewra)、マンゴー、タマリンドや Chalta(Sour Elephant Apple)等の果実を使用したピクルス、うちわ、写真の額等のクラフトの品質改善や、第2年次で新たに開発する商品のテーブルマット、女性用の小さいバック、パソコンやiPadのクラフトバッグ、クラフトで作られた麻ロープ(jute Shika)、冬用の伝統的な服(Nakshi Kantha)の商品開発のための研修会を開催した(選抜された12人、7日間)講師は、これらの商品開発に精通している企業家が担当した。
→ 日程: 2021年4月24日～4月30日
- ② バングラデシュ品質管理検査機関(BSTI)からの国内(全国)における商品販売の許可申請とその承認を得た。
- ③ ピクルスを開発するための香辛料、ボトルやラベルを購入した。
- ④ 非木材林産物生産を対象とした魚を取り扱う食品会社・工場へのスタディツアーを開催し、受益者10名が参加。
→ 日程: 2021年3月18日～3月20日、場所: Patuakhali 県、Kalapara 地区
- ⑤ 広報のためのパンフレット作成(1000部)し、グリーンショップや青空市等で配布を行った。
- ⑥ クルナ市の Nirala Park と Hadis Park の青空市では、33,600人が訪れた。また、他の販売所では、18,200人程が訪れ、開発した商品のアピールを行った。
- ⑦ グリーショップ等の開設により、開発した商品のローカルマーケットにおける商品販売店やその販売網を確立した。
- ⑧ 販販売店舗でのモニタリング、販売店オーナーや購入者からの商品に関する意見集約した。
主な意見: シュンドルボンの自然の恵みを活用し、質の高い商品を提供しているところが店や消費者を魅了させる場所である。

(4) エコ・グリーンツーリズム実施グループ

- ① カルチャルチーム(9人、女性:4人、男性:5人)を結成した。カルチャーチームは、プロジェクト対象地域で暮らす地元住民から選定した。
- ② カルチャルチームによる技能向上研修会を開催した(7日間)。講師は、同国の著名な文化活動家を招聘して実施した。
→ 研修日: 2021年3月10日～3月15日と3月17日
- ③ カルチャルチームの機材購入(伝統的な楽器、ドレス)を購入した。

	<p>④ 広報のためのパンフレット作成(1000部)し、グリーンショップや青空市等で配布を行った。</p> <p>⑤ エコ・グリーンツーリズムのプロモーション活動(旅行会社、学校等)は関係者と連絡を取り合い、円滑な実施に向けて調整を進めた。また、Facebook等のSNS等のメディアを活用し、組合やその活動内容の普及啓発を進めた。</p> <p>⑥ 空港(ジョシヨール)や鉄道駅(クルナ市)と現地まで観光客を輸送するための小型バス(1台、2人乗り)を購入した。</p> <p>⑦ エコ・グリーンツーリズムの実施により、目標としていた2,000人を上回る観光客2,221人を受け入れることができた。</p> <p>⑧ 観光客のツアー内容に関する意見集約を行った。 主な意見: シュンドルボンの自然の美しさに感動したことや、また、提供して頂いたエコ・グリーンツーリズムのプログラム内容や宿泊施設もたいへん満足している。</p> <p>(5) 政府等が主催するフェアへの出展・参加 下記4回のフェアに出展・参加した。</p> <p>① Govt. Development fairs: 2021年3月27日~4月2日、1,673人参加</p> <p>② Nikiler Mor.: 2021年8月26~31日、1,550人参加</p> <p>③ Baniasanta union: 2021年9月28~29日、950人参加</p> <p>④ Baniasanta bazar:: 2021年10月27~28日、1,050人参加</p> <p>3. シュンドルボン沿岸流域を中心とした住民参加型の植林と環境教育の実施</p> <p>① マングローブ(種類: Kewra, Nipa, Sundori, Bain, Kakra, Ora)は、20,000本を植林した。</p> <p>② 果樹や薬樹等3,000本を植林した。: Mango(マンゴー)200本、Jack fruit(ジャックフルーツ)125本、Malta(マルタ)100本、Star apple(スターアップル)150本、Sour wood apple(サワー・ウッド・アップル)250本、Guava(グアバ)250本、Hog plum(モンビンノキ)250本、Plum(プラム)200本、Pomegranate(ザクロ)225本、Sapota(サポジラ)200本、Wood apple(ウッド・アップル)200本、Betel nut(ビンロウ)250本、Coconut(ココナッツ)100本、Black berry(ブラックベリー)100本、Rain tree(レインツリー)75本、Mahogany(マホガニー)75本、Chambol tree100本、Amla(ユカン)50本、Terminalia chebula(ミロバラン)50本、Bohera fruit(ボヘラ)50本。</p> <p>③ 小学校11校と協同組合メンバーを対象とした環境教育は、コロナ禍の中で地域での青空教室形式における開催と、感染拡大が落ち着いた時には11の小学校で実施を行った。</p>
(3) 達成された成果	<p>1. Sundarbans Workers Cooperative Society Limited(仮名)の組織運営・基盤の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 申請書に記載されている成果および指標 <p>成果: 協同組合の組織運営やその基盤が強化されることで、商品を開発・販売するためのマーケティングを確立することができる。</p> <p>指標 1: クルナ市におけるグリーンショップとネットショッピング(E-comers)の開設(協同組合の開設記録および販売記録)</p> <p>指標 2: Sundarbans Workers Cooperative Society Limited(仮名)を持続的に運営するため、組合員により254,400タカ(265世帯×80タカ×12ヶ月、約334,000円程度)/年が貯蓄される(協同組合の銀行口座通帳記録)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● <u>達成した成果は、下記の通りである。</u> ・ 漁師、農業・畜産、非木材林産物、エコ・グリーンツーリズムの4つのグループ(各グループ10人のメンバー、合計40人のメンバー)を対象とした組合運営のための研修会を開催することで、資金管理やその運用等に関する能力が向上し、組織の強化につながった。

- ・ 協同組合のウェブサイト立上げによるネットショッピングや Facebook 等の SNS 等を活用したこと、並びにクルナ市にグリーンショップを開設することで、当該事業のアピールを行うことができた。
- ・ 協同組合員費の貯蓄は、これまで(2020年2月～2022年2月の2年間)で465,600 タカ(≒673,420 円)協同組合を継続していくための当事者意識が継続的に醸成された。※換算為替レート: 1 タカ=1.45 円(2022年5月29日)
- ・ SDGs では、「目標 5 (5.5, 5.c): ジェンダー平等を達成し すべての女性及び女児の能力強化を行う」や「目標 17 (17.16,17.17): 持続可能な開発のための実施手段を強化し、パートナーシップを活性化する」に寄与した。また、「目標 8 (8.5, 8.9): 包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する」につなげることができた。

2. 適切な生産技術の習得や商品開発(案)・サービスを行うための技能向上と商品の販売

- 申請書に記載されている成果および指標

成果: 農畜林水産物商品の品質改善や新商品の開発、クルナ市およびローカル市場での販売店舗の設置、並びにバングラデシュ品質管理検査機関(BSTI)による国内(全国)の承認およびエコ・グリーンツーリズムの促進等により、直接受益者の生計が向上する。

指標 1: 漁師グループ、農業・畜産グループの各グループにおける生計が事業開始前よりも 15%増加、非木材林産物生産グループは 30%、エコ・グリーンツーリズムは、事業開始前よりも約 8 倍の増加を目指す(協同組合の売上帳簿)。

漁師グループ

事業開始前:4,800 タカ(≒7,000 円)/世帯

第 2 期事業終了後: 5,520 タカ(≒8,000 円) /世帯

農業・畜産グループ

事業開始前:3,500 タカ(≒5,000 円) /世帯

第 2 期事業終了後:4,025 タカ(≒5,840 円) /世帯

非木材林産物生産グループ

事業開始前:3,000 タカ(≒4,340 円) /世帯

第 2 期事業終了後:3,900 タカ(≒5,650 円) /世帯

エコ・グリーンツーリズム実施グループ

事業開始前:3,000 タカ(≒4,340 円) /世帯

第 2 期事業終了後: 24,000 タカ(≒34,700 円)/世帯

指標 2: 農村生産者組合は、政府が主催する展覧会や青空市にて一般住民からの農畜林産物の商品に対する意見・助言・提言の収集により、今後の全国販売へ向けた示唆を得ることができる(展覧会レポート)。

- 達成した成果は、下記の通りである。

- ・ 漁師、農業・畜産、非木材林産物、エコ・グリーンツーリズムの各グループにおける研修会の開催を通じて、直接受益者の能力向上と多様な商品開発へ向けた質の向上および彼らの当事者意識のより一層の醸成に寄与することができた。

✓ 漁師グループ

技能向上研修会: 10 人、7 日間

スタディツアー: 10 人、5 日間

✓ 農業・畜産グループ

技能向上研修会: 12 人、7 日間

スタディツアー: 10 人、5 日間

✓ 非木材林産物グループ

技能向上研修会: 12 人、7 日間

スタディツアー: 10 人、3 日間

✓ エコ・グリーンツーリズムグループ

技能向上研修会: 9 人、7 日間

- ・ 青空市やグリーンショップに出展し、59,000 人程に渡る参加者に開発した商品やエコ・グリーンツーリズムをアピールすることができた。
- ・ 漁師グループ、農業・畜産グループの各グループにおける生計が事業開始前よりも 15%増加、非木材林産物生産グループは 28%、エコ・グリーンツーリズムは、事業開始前よりも約 7.4 倍増加し、ほぼ計画通りの数値を達成した。

漁師グループ

事業開始前:4,800 タカ(≒7,000 円)/世帯

第 2 期事業終了後: 5,568 タカ(≒8,060 円)/世帯

農業・畜産グループ

事業開始前:3,500 タカ(≒5,000 円)/世帯

第 2 期事業終了後:4,025 タカ(≒5,830 円)/世帯

非木材林産物生産グループ

事業開始前:3,000 タカ(≒4,340 円)/世帯

第 2 期事業終了後:3,840 タカ(≒5,560 円)/世帯

エコ・グリーンツーリズム実施グループ

事業開始前:3,000 タカ(≒4,340 円)/世帯

第 2 期事業終了後: 22,200 タカ(≒32,000 円)/世帯

- ・ 政府が主催する展覧会や青空市にて一般住民からの農畜林産物の商品に関する主な意見としては、開発した商品やエコ・グリーンツーリズムのプログラム内容について、質が良く完成度の高いものになりつつあると言える。
- ・ SDGs では、「目標 2 (2.3): 飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し持続可能な農業を促進する」、「目標 12 (12.8, 12.b): 持続可能な生産消費形態を確保する」、「目標 14 (14.2, 14.b): 持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する」や「SDGs の目標 1 (1.2, 1.b): あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる」に貢献することができた。

3. シュンドルボン沿岸流域を中心とした住民参加型の植林と環境教育の実施

- 申請書に記載されている成果および指標

成果: 組合(265 世帯)、11 の小学校(教師 34 人、生徒 1,583 人、保護者 3,166 人)の直接受益者を対象に植林活動とその環境教育を行い、バニシヤンタ行政村周辺の農地、マングローブ林や漁場等の里山・里海の保全・再生およびシュンドルボン沿岸流域の森林保全が行われる。

指標: 組合(265 世帯)、11 の小学校(教師 34 人、生徒 1,583 人、保護者 3,166 人)の自然環境保全のアンケートで、参加者の 8 割が沿岸流域の植林の役割・意義・必要性について理解を得ることができる(植林活動記録)。

- 達成した成果は、下記の通りである。

- ・ 地域住民が参加してマングローブの植林 20,000 本や果樹・薬樹 3,000 本の植林を通じて、地域住民の森林保全と森づくりに対する意識向上へ寄与することができた。
- ・ 11 の小学校を対象とした環境教育プログラムを実施することで、当該地域の自然環境や生態系の仕組み、環境保全の重要性に対する理解を深めることができた。アンケートの結果では、8 割以上が植林の役割・意義・必要性について理解することができた。
- ・ SDGs では、「目標 15 (15.1,15.2): 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する」の達成に貢献した。

(4) 持続発展性

第1年次の事業成果に基づく今後の見通しは、下記の通りである。

1) 農畜林水産業の6次産業化の能力開発・ネットワーク強化を通じた貧困削減への寄与

- ① 農村生産者組合の組織力や、行政、企業(食品加工・旅行会社)、大学、学校、NGO等の関係者との連携を強化できたことで、6次産業を通じた農畜林水産物の販売を効果的に進めることができた。今後、開発した商品の販売や地域に根ざしたエコ・グリーンツーリズムのサービスをより促進させるには、関係者とのつながりを拡大していくための会合やワークショップ等を定期的に開催して、シュンドルボン地域のマルチステークホルダーのパートナーシップによる農畜林水産物の6次産業を発展させていくための仕組みづくりを目指す。
- ② 組合員は、市場における商品の販売網を構築できたことや、顧客からの意見等の集約により、農畜林水産物の6次産業化の進め方に向けての示唆を得ることができた。当該事業や開発した商品に興味・関心を抱いてくれた人たちからの声を大切にしながら、協同組合が自分たちのビジネスに対するサービスの質を一層高め、組合員の生計向上につなげることができるよう、その定着を図る。
- ③ 組合員は、シュンドルボン地域の農畜林水産物の6次産業化による商品のブランド化を図るためにも、グリーンショップでの販売強化やスタディツアー、青空市、政府の展覧会やエコ・グリーンツーリズムのプログラムに参加した観光客とのネットワークを活用し、地域住民の経済・社会の発展および貧困削減に寄与することを目指す。

(2) 購入した車両の維持管理

購入した農畜林水産物の原料等を運ぶための車両(1台)や観光用小型バス(1台)の維持管理は、農村生産者組合が、毎月、組合員から徴収した運営費や農畜林水産物の販売による収益の一部を貯蓄しながら進める。事業終了後も、協同組合が維持管理を進められるよう、毎月の組合費や商品販売による売り上げの一部を貯蓄する。

(3) 地域の持続的な自然環境保全活動

組合員や小学校を中心とした教師、生徒、保護者が、地域のイベント等に植林やその環境教育のプログラムを含めて実施することで、シュンドルボン沿岸流域の森や生物多様性が保全するためのリーダーとして活躍できる場をできるだけ多く創出し、持続可能な自然環境保全の実施や農畜林水産業を発展させていくための住民の意識を向上させていく。